

水稻の初期生育状況（6月26日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2023年6月27日

1 生育状況

6月26日現在の水稻の生育状況は、平年値(2013～2022年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(6月26日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ*	6月上旬	長い	多い	やや薄い
キヌヒカリ	6月上旬	同等	多い	同等
てんこもり**	6月上旬	長い	多い	同等

*2014～2022年までの過去9年平均との対比、**2018～2022年までの過去5年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が6月22日に発表した1か月予報(6/24～7/23)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 水管理

苗が活着してからは、分けつを促進するために、浅水(概ね2～3cm)で管理しましょう。

(2) 中干し

中干しは、過剰分けつ抑制と根への酸素供給、田面を固め倒伏を予防するために実施します。最高分けつ期頃から5～7日程度水を切り、田面に軽いひび割れができる程度に干しましょう。

(3) 雑草防除

ア 藻類の発生が目立っています。藻類が多発すると、地温の低下等により水稻の生育が抑制されることがありますので、一時的に水を落としたり、藻類に適用がある除草剤を施用します。

イ ノビエ(写真1)、イヌホタルイ(写真2)、コナギ(写真3)、オモダカ、クログワイ、クサネム等が残草したときは、中期剤や後期剤を施用します。

ウ ナガエツルノゲイトウ(写真4)の発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られたときは、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。



ノビエ(写真1)



イヌホタルイ(写真2)



コナギ(写真3)



ナガエツルノゲイトウ(写真4)

(4) 病虫害防除

病虫害の発生源となる余り苗は水田に放置せず早急に除去しましょう。水田周辺の雑草も除草を徹底しましょう。

ア スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）（写真5・6）

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。水田内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm目合いの網を設置しましょう。また、密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵（卵塊）は潰しましょう。

イ 斑点米カメムシ類（写真7）

水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田に侵入、籾を吸汁し斑点米を発生させ、落等の要因となります。日頃から畦畔や水田周辺の除草管理を徹底し、水田への侵入を防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控えましょう。



ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ

アカスジ
カスミカメ

スクミリンゴガイ（写真5） 卵塊（写真6）

斑点米カメムシ類（写真7）

※ この他の病虫害防除対策は、病虫害防除部の「令和5年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023_3_31.html

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における過去10年（2013～2022年）平均

作期	品種名	中干し時期	穂ばらみ期	出穂期
6月上旬植	はるみ	7月11日～16日頃	7月26日～8月10日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月10日～15日頃	7月25日～8月9日頃	8月9日
	てんこもり	7月17日～22日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日*
6月中旬植	はるみ	7月17日～22日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日**
	キヌヒカリ	7月16日～21日頃	7月31日～8月15日頃	8月15日
	てんこもり	7月21日～26日頃	8月5日～8月20日頃	8月20日*

・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。

・ *2018～2022年（5年平均）のデータに基づく。 **2012, 2015～2022年（9年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL：0463-58-0333 内線381～384